

## 「四季・植物」 9 椿

学名 *Camellia japonica* L.

ツバキ科の常緑高木

「椿」は国字であり、中国で「椿」はセンダン科の別の植物をさす。漢名「山茶」。

### 郷土資料から見た椿のあれこれ

昔、鯨波に玉屋徳兵衛という金持ちがいた。たくさんの金銀財宝の保管場所に困った徳兵衛は、1本の椿の根本に埋めておいた。温泉に出かけた徳兵衛は「越後鯨波玉屋の椿、枝は白銀、葉は黄金」という唄を聞き、驚いて家に戻ってみると唄のとおり輝く椿があり、根本には何も埋まっていなかった、という昔話がある。

椿は桜やつつじなどとともに、古くから春の花としてよく知られた花であるが、古代には、魔力を持つために冬でも葉が落ちないと信じられ、神聖な木とされた。地方によっては、椿の木は化けてでるとも伝えられている。花が散るとき花びらが散らずに花ごと落ちるのを忌み、屋敷に植えない地方もある。

人の暮らしとの関わりも深く、種子からとれる椿油は古くから頭髪油として利用されている。また、椿油は「火傷したとき、すぐ塗布するとよい」（「柏崎市史資料集 民俗篇」）と民間療法ではいわれている。

道明寺粉を蒸してこし餡を包んだものを椿の葉2枚ではさんだ椿餅は、桜餅と同じく春のお菓子である。

#### 参考資料

「図説 樹と花の大辞典」	植物文化研究会・雅麗編	1996	「お茶人のための茶花野草大図鑑」	世界文化社発行	1996
「日本大百科全書」	小学館発行	1994	「四季の和菓子 春」	講談社発行	1990
「柏崎市史資料集 民俗篇」	柏崎市史編さん委員会編	1986	「新潟県伝説の旅」	BSN新潟放送編	1987
「柏崎市伝説集」	柏崎市教育委員会編	1972			